

令和 6 (2024) 年度 登録コンクリート圧送基幹技能者認定試験
合格基準および総評について

令和 6 年 10 月 31 日

登録コンクリート圧送基幹技能者認定委員会

【合格基準】

択一式問題	25 問, 50 点満点
計算問題	4 問 (解答数計 15 題), 30 点満点
記述式問題	問題 1 (800 字), 13 点満点
	問題 2 (400 字), 7 点満点

- ① 択一式問題の得点数が 30 点以上
 - ② 計算問題の得点数が 14 点以上
 - ③ 記述式問題 1 の得点数が 7.5 点以上
 - ④ 記述式問題 2 の得点数が 3.5 点以上
- 以上①～④の得点数をすべて満たした者を合格とする。

申込者数：69 名 (うち、講習完了者数：58 名, 受験者数：66 名)

合格者数：49 名

合格率：71.0% (対申込者数) . . . 参考：令和 5 年度の合格率は 70.8%

【総評】

本年度 (令和 6 年度) の登録コンクリート圧送基幹技能者認定講習は、昨年度に引き続き大阪での開催となりました。台風 8 号が日本列島に接近する中での開催となりましたが、会場、講師陣、そして受講者・受験者の皆様のご協力もあり、試験を含めた全日程を、体調不良者を出すことなく、無事に終えることができました。改めて感謝申し上げます。

さて、本年度の講習も、例年にも増して熱心に取り組んでいた様子が見え、コンクリートポンプ圧送マニュアルと講習テキストを事前に配布して、予習や事前課題に取り組めるよう配慮し、また、全圧連のホームページに「過去問題」を掲載して、試験対策を行える環境を整えました。アンケートの結果では、受講前に予習したり、過去問題に取り組んだりした受講生がともに 70%に達しておりました。事前に記述式問題に取り組んだ受講生も 47% (28 名) にのぼっており、例年にも増して多くの方が事前対策を行っていたようです。このような方々の多くが「合格」を勝ち取っています。

本年度の合格率は、昨年と同等の 71.0%となりました。不合格となった方々の中には、一部の問題がよくできていても、別の問題ができておらず、残念ながら合格基準に達しなかった方がいます。資格認定には、すべての講習内容についての理解を必要としており、この点を踏まえて、再度のチャレンジを期待しています。

各試験問題の答案を分析した結果について、認定委員会の見解を以下にまとめましたの

で、今後の参考にしてください。

- ・ 択一式問題については、昨年度までと難易度を変えていないため、30 点以上を合格としました。平均点は 36.6 点／50 点であり、講義内容を理解できていることが確認できました。ただし、働き方改革関連法など建設業に関わる最近の法令関係の正答率が低く、少々理解が足りないことが感じられました。試験の可否に関わらず、講習テキストをよく復習して頂きたいと思います。

なお、択一式試験の問題 12 の選択肢の表で、まったく同じ選択肢が 2 つあることを、受験者より指摘されました。そのため、認定委員会の試験監督本部で対応を協議し、同じ選択肢のうちの 1 つを訂正するよう、試験時間中に会場のホワイトボードに修正内容を記載し周知しました（以下参照）。しかし、受験者から質問を受けた段階ですでに 1 名が退室し、修正を周知した時点でさらに 3 名程度が退室していたため、合否判定においてこの問題の配点をどう取り扱うかを審議しました。その結果、4 つの選択肢が実質 3 つの選択肢となるだけで正答に影響がないため、配点の調整は行わないこととしました。これは、受験者全員の答案を確認した上での決定ですので、ご承知おきください。

試験問題に誤記がありましたこと、深くお詫びいたします。再発防止に努めます。

問題 12 圧送計画に関する次の記述のうち、**適当な組合せ**はどれか。

圧送計画では、打込み箇所、1 回の打込み量、作業時間、輸送管の経路、コンクリートの配(調)合などの諸条件から、必要吐出量 (Q_N) と必要吐出圧力 (P_N) を満足する【 A 】を選定する。圧送によるコンクリートの品質変化ができるだけ【 B 】ように、また、安全な圧送を行えるように配管の仕様・経路を選定することである。すなわち、コンクリートの品質・作業の安全性を確保しつつ、できるだけ吐出圧力が【 C 】ように計画を立てるのがよい。

項目	【 A 】	【 B 】	【 C 】
(1)	コンクリートの種類	小さくなる 大きくなる	大きくなる 小さくなる
(2)	コンクリートポンプの種類	小さくなる	大きくなる
(3)	コンクリートの種類	大きくなる	小さくなる
(4)	コンクリートポンプの種類	小さくなる	小さくなる

【正解：(4)】

- ・計算問題については、例年と類似した設問であり、14点以上を合格としました。圧送負荷の算定に関する設問の正答率が高い一方で、昨年同様、輸送管の仕様（肉厚）の選定にかかわる設問の正答率が低かったのが残念です。

実務において安全な作業を行っていただくためにも、計算の知識は必須です。登録基幹技能者に必要な計算の知識は、講習を受けただけで習得できるものではありません。普段の実務をおさらいすること、過去の問題や今回の講習で配布された事前課題をしっかりと理解すること、で正答を導けたはずです。試験の可否に関わらず、これらの問題に何度も取り組み、しっかりと身に着けていただきたいと思います。また、これから登録基幹技能者を目指す後輩の方々に対しても、圧送マニュアルで継続的な学習に努め、自分が分からない箇所・質問したい箇所について事前に整理をした上で講習に臨むよう、お伝えください。

- ・記述式問題については、昨年度と同様の出題形式としました。

問題1では、記述すべき内容を①工事の概要、②そこでの工夫、③圧送の結果、④振り返り、に項目立てして問い、記述すべき内容をより明確にしています。受験者は、過去の問題に比べて記述しやすかったはずであり、これを踏まえて、合格点を昨年度と同様の7.5点以上としました。問われていることに対して、的確に答えることは基幹技能者として必要不可欠な能力であり、①～④のそれぞれの記述が及第点に達していないものについては、不合格としました。

また、現場でコンクリートのスランプの上限要求をして対処したなど、『基幹技能者としての資質』と『技術者倫理』が疑われる記述をした答案がありました。これらの答案については、審議の結果、相当の減点を行っております。構造物の品質や作業の安全性に悪影響を及ぼす可能性のある行為は行ってはならないという、基幹技能者としての心構えをしっかりと持っていただきたいと思います。

問題2についても、圧送業における働き方を改善する手段として、①自分たちでできること、②元請に要望すべきことを、それぞれ分けて記述する必要がある、①、②のそれぞれの記述が及第点に達していないものについては、不合格としました。合格点は昨年度と同様の3.5点以上としました。

記述式問題では、文字数が到達しているものの、上述のとおり、各設問の「題意」を汲み取っていない答案がありました。このほかに、問題1に時間を要してしまい、問題2をきちんと書ききれなかった方（字数が足りない、途中で終わってしまっている）も見受けられました。

- ・択一式問題や計算問題で高得点を獲得していても、記述式問題が及第点に及ばず、残念ながら不合格となった方がいます。登録コンクリート圧送基幹技能者の業務においては、現場や元請への提案力が必要とされることから、認定試験の記述問題では、ご自身の経験や考えを「文章にまとめる力」を判定しています。講習中に配布した文書の書き方の資料を参考に、過去に出題された問題で訓練を重ね、再度のチャレンジに備えてください。

- ・記述式問題で高得点を獲得していても、択一式問題が及第点に及んでいない方もいます。

登録コンクリート圧送基幹技能者として必要な知識の習得に務めて頂きたいと思います。

登録コンクリート圧送基幹技能者認定試験の合格者の皆様には、さらなる研鑽を積まれ、第一線での益々のご活躍を期待しています。残念ながら今回、不合格となった方々は次年度に再挑戦いただき、是非とも合格を勝ち取ってほしいと思います。追試験だけでなく、もう一度講習から受け直すことも合格への大きな近道ですので、ご一考をお願いいたします。